巻　　頭　　言

長崎短期大学　学長
安 部　　恵 美 子

2019 年 12 月に中国武漢市で初めて患者が確認された新型コロナウィルス感染症（COVID-19）は、瞬く間に全世界に爆発的に拡がり、3 年以上の月日が経過しました。現在、わが国では、抗体ワクチンの接種が進んではいるものの、感染終息の兆しは、いまだ見えない状況にあります。

コロナウィルス感染拡大は、キャンパスを中心とする学生生活の制限や遠隔授業の急速な普及など、短大の日常を大きく変えることとなりました。昨年度に引き続き本年度も、コロナ禍という危機的状況の中で、感染拡大防止と学生の学修機会の確保の両立に試行錯誤を繰り返す日々となりました。

特に、2019 年 4 月に入学した今年度の卒業生の在学期間は、まさにコロナで始まり、コロナで終わってしまったわけですが、感染対策に十分配慮しながらも、学生の学びを止めてはいけないとの思いから、若い教員を中心として、授業のオンライン化やハイブリット化を積極的に進めました。変わらざるを得ない教育環境の中で、本学の教員たちは、ファカルティとしての柔軟性や協働性を高めながら、今年の卒業生にもコロナ前と変わらない教育を提供できたのではないかと思います。

さて、このコロナ禍は、本学の教員各位の研究にも様々な制約を与えたと推察される中、本年度の紀要には、論文 5、研究ノート 2、報告 4、資料 1、計 12 もの投稿が集ったことは大変嬉しいことです。自らの専門分野の新たな知見を探求する研究、専門教育の内容・方法に関する研究や教育実践報告など、掲載された論稿は、例年と同じく多彩ですが、本学の教員のみなさんが、研究者や教育者としての課題を設定して解を導く活動に、日々積極的に取り組んでいることの証左であると思います。

教員各位におかれては今後も、本紀要に限らず、研究業績を積み上げ発表する機会を数多く持たれることを心から願います。

最後になりましたが、学務が錯綜する中に、編集作業に最後まで携わっていただいた紀要編集委員諸氏のご尽力に深く感謝申し上げます。

令和４年４月